

令和3年度第2回教科用図書南那珂採択地区協議会

日時：令和3年7月8日（木） 15:00～16:30

会場：南郷ハートフルセンター 文化会館(会議室)

教科	発言者	主な質疑応答及び協議内容等
歴史	部長	調査研究の報告
	質疑	
	協議会委員	教科書の内容については、どの発行者もだいたい同じ内容が網羅してあるのか。
	部長	どの発行者の教科書も学習指導要領に基づき制作され、国の検定を受けている。必要な指導内容については、どの教科書にも網羅されている。
	協議会委員	必要な内容が網羅されているということだが、内容によって濃淡はあるのか。
	部長	調査の過程で、例えば近現代史のページ数を確認したが、どの発行者の教科書も、同じ程度のページ分量で構成されていた。
	協議会委員	宮崎県の偉人についての取扱いについてはどうか。
	部長	宮崎県の偉人の取扱いについては、東京書籍が「伊東マンショ」「小村寿太郎」「石井十次」の3名を取り上げている。教育出版と帝国書院は「小村寿太郎」を取り上げており、自由社と育鵬社、山川出版社は、「伊東マンショ」「小村寿太郎」について取り上げている。日本文教出版は「小村寿太郎」と「石井十次」を取り上げている。
	協議会委員	自由社の報告の中で、「歴史モノサシ」の説明があったが、同じようなものが、他の教科書にもあるのか。
	部長	どの発行者の教科書にも、単元のはじめや単元内のページを通して、時系列に関わる視点が設けてある。
	協議	
	協議会委員	表紙が文字だけの教科書があるが、歴史学習とどのような関係があるのだろうか。
協議会委員	蘭学に関する辞典等の写真を表紙にしたのではないか。	
協議会委員	宮崎県の偉人を多く取り上げ、宮崎県のことをしっかり考えて作っているのは東京書籍ということになる。	
協議会委員	自由社の「歴史モノサシ」など、時代の前後関係が分かるものが掲載されていることは大事だと感じた。	
協議会委員	地元宮崎についてできるだけ多く取り上げられている方が、子どもたちも興味関心をもって学習することができると思う。東京書籍は3名の偉人を取り上げている。	
協議会委員	東京書籍の報告で、「地域の歴史を調べよう」というのがあったが、地元宮崎のことをできるだけ多く取り上げられていれば、そのような学習にも繋がりがやすいと思った。	
会長	【選定】 <input type="radio"/> 6名の協議委員による多数決を行う。 <input type="checkbox"/> 歴史：東京書籍…6名	